

第34篇 船 の 種 類

担当委員 生嶋 庄三

執筆者 海上秀太郎	上野喜一郎	小田千馬木	小室 鉄
榎原 鍼止	関谷 健哉	高嶋 三郎	平方 俊平
前野政之助	村田 義鑑	山中 三郎	山本 黒

目 次

第1章 總 説

1. 法規上の分類.....	3
a. 國籍による區別. b. 登記,登録の有無による區別. c. 所有者による區別. d. 資格による區別. e. 貿易上の區別. f. 用途による區別. g. 運航装置による區別.	
2. 用途上の分類.....	3
a. 軍艦. b. 商船. c. 特殊船.	
3. 運営上及び航路による分類.....	4
a. 運営上. b. 航路.	
4. 構造材料による分類.....	4
5. 推進方法及び推進機関による分類.....	4
a. 推進方法. b. 推進機関.	
6. 構造及び船型による分類.....	5
a. 構造. b. 船型.	

第2章 特 殊 船

1. 移民船.....	5
2. 渡船.....	6
a. 分類. b. 普通船舶型渡船. c. 車輛渡船.	
3. 木材運搬船.....	17
4. 石炭運搬船.....	19
5. 鉱石運搬船.....	20
6. 穀類運搬船.....	21
7. セメント運搬船.....	22
8. 冷藏船.....	27
9. 油槽船.....	28

34篇 目 次

10. 浅吃水船	31
a. 特性. b. 用途.	
11. 碎氷船	34
12. 海難救助船	36
13. 海底電線敷設船	38
14. 漁 船	40
a. トロール漁船. b. 機船底曳網漁船. c. 打瀬網漁船. d. 揚操網漁船. e. 巾着網漁船. f. 流網漁船. g. 刺網漁船. h. 棒受網漁船. i. 鰐釣漁船. j. 鰐釣漁船. k. 鮪延繩漁船. l. 突棒漁船. m. 捕鯨船. n. 鮫鱈母船. o. 蟹母船. p. 冷凍母船. q. 真珠漁船. r. 珊瑚漁船. s. 運搬漁船. t. 取締船. u. 試験船,指導船. v. 練習船. w. その他の漁船.	
15. 航海練習船	48
16. 游 漂 船	50
17. 垂 船	57
18. 消 防 船	58
a. 特性. b. 用途及び装置.	
19. 起重機船	60
a. 特性. b. 用途.	
20. モーターボート	62
a. 用途による分類. b. 船体構造材料による分類. c. 使用機関による分類.	
21. ヨット	69
a. 種別. b. 巡航艇. c. 船型による種類. d. 構造による種類. e. 帆装の種類. f. 離走艇.	

第3章 帆 船

1. 帆装の種類	65
a. 帆, 橋, 帆架等の名稱. b. 帆装の種類.	
2. 主なる索具の名称, 用途及び寸法	76
a. 橋の静索. b. 斜橋の静索. c. ヤードの索具. d. ガフ及びブームの索具. e. 横帆の動索. f. ステールスルの動索. g. ガフルスルの動索. h. ガフトップスルの動索.	
3. 帆の面積及びその中心点の決定	81
a. 帆の面積の決定. b. 風壓中心の前後の位置の決定. c. 風壓中心の上下の位置の決定.	

第35篇 基本設計

担当委員	榎原 鉄止	福田 啓二			
執筆者	海上秀太郎 岡村 博 榎原 鉄止 前野政之助 山本 熙	江崎 岩吉 加藤 恭亮 高嶋 三郎 村田 義鑑 横山 渉	大蔵 大輔 加藤 義人 平方 俊平 山縣 昌夫 和田 一郎	岡 節夫 片山 有樹 福田 啓二 山口 宗夫 和辻 春樹	

目 次

第1章 商船基本設計

1. 基本設計概説	89
2. 船体主要寸法	94
3. 諸係数及び近似式	109
4. 排水量、空貨重量及び載貨重量	122
5. 船体重量	134
a. 船体重量の概算。 b. 工事区分別、材料別重量表。 c. 新規の 船体重量。	
6. 速度及び馬力	138
7. 機関の種類と機関室の大きさ	140
a. 機関の種類。 b. 機関室の大きさ。	
8. 機関重量	141
9. 燃料、給水量	142
10. 復原性能	145
11. 船体強度及び振動	149
a. 船体強度。 b. 振動。	
12. 乾舷及び水密区画	151
13. 載貨容積	154
14. 積量	155
15. 船体線図	157
a. 水面上の形状。 b. 水面下の形状。	

16. 一般配置.....	160
a. 一般配置作製順序. b. 所要甲板面積の推定. c. 浴室, 便所の數.	
d. 中甲板の高さ. e. デリックの配置. f. 箱口の大きさ.	
g. 食糧品庫. h. 旅客手荷物庫. i. 病室設備	
17. 造船契約と仕様書.....	165
a. 造船契約. b. 仕様書.	

第2章 特殊船設計要領

1. 連絡船.....	168
a. 主要寸法. b. 速力. c. 一般配置.	
2. 列車渡船.....	170
3. 木材運搬船.....	171
4. 石炭運搬船.....	173
5. 鉱石運搬船.....	175
6. 冷 藏 船.....	177
a. 一般計画. b. 冷藏装置に関する規則. c. 魚類冷凍方法.	
d. 肉類冷凍方法. e. 冷藏方法.	
7. 油槽船.....	178
8. 浅吃水船.....	179
a. 主要寸法. b. 載貨重量. c. 船体重量. d. 速力.	
e. 復原性.	
9. 碎氷船.....	182
10. 海底電線敷設船.....	186
11. 漁 船.....	187
12. 渚漁船.....	192
13. 吊 船.....	195
a. 一般計画. b. 主機械. c. 推進器. d. 吊索鉤.	
14. 起重機船.....	196
a. 主要寸法. b. 船体重量. c. 速力. d. 復原性.	

第3章 軍艦基本設計

1. 基本設計概説.....	198
2. 重量配分.....	200
3. 馬力の算定.....	202

4. 船体主要寸法.....	204
5. 復原性能.....	203
6. 強 度.....	210
7. 防禦法.....	211
a. 彈丸及び爆弾に対する防禦. b. 水中爆発(魚雷)に対する防禦.	
8. 大体配置.....	214
a. 機関室. b. 彈火薬庫. c. 補機室. d. その他戦闘上必要 なる区画. e. 兵員室. f. 士官以上の居住区. g. 倉庫及び 糧食庫. h. 重油タンク. i. その他の諸室. j. 兵装. k. 水雷兵装関係. l. 飛行機関係. m. 橋樑及び檣. n. 煙突 の裝備. o. 罐室通風筒裝備. p. 艦の外形等.	
9. 潜水艦.....	218
a. 各種状態. b. 重量及び浮量. c. 大体配置及び主要寸法. d. 馬力の算定. e. 復原性能. f. 潜航性能. g. 強度.	

第36篇 進水

担当委員 古武彌輔

執筆者 磯部義彦 古武彌輔 和田一郎

目 次

第1章 総論

第2章 進水計算

1.	ポンジャン曲線	229
2.	重量及び重心	229
3.	浮力及び浮心	230
4.	浮力モーメント及び重量モーメント	230
	a. 滑動台前端に対するモーメント。 b. 固定台後端に対するモーメント。	
5.	船尾浮揚と抱台圧力	231
6.	その他の諸項	232
	a. 船尾浮始め時の復原性。 b. 固定台後端におけるチッピングに抗するモーメント。 c. 固定台後端に懸かる圧力。 d. 進水と船体強度。 e. 初発進水力。 f. 進水速度。 g. 進水制動。	

第3章 進水要目

1.	進水台の傾斜及びキャンバー	239
2.	平均圧力	240
3.	進水台の長さ、幅及び潮高	240
	a. 滑動台。 b. 固定台。	

第4章 進水台構造

1.	固定台及び滑動台	242
	a. 固定台。 b. 滑動台。	
2.	前後部抱台	244
3.	トリガーその他	247
	a. ドッグ・ショア。 b. 押出水圧器。 c. 制動装置。	

第5章 進水作業

1. 船体補強	250
2. 進水台据付	251
a. 傾斜見透方及び枕盤木配列方.	b. 固定台引込方.
据付方.	c. 固定台
d. 滑動台引込方.	e. 前後部抱台(鞍板ボベット)組立
及び腹駒製作合せ方.	f. 滑動台移動方.
g. 滑動台卸方及び腹駒	合せ方.
3. 進水油脂及びその塗抹方法	254
4. 進水当日作業その他	256
a. 矢継方.	b. 支柱及び腹盤木取外方.
d. 進水.	c. 龍骨盤木取外方

第37篇 船体施工

担当委員 井上恒六

執筆者 阿多正雄 井上恒六 井関友藏 萩野覚
古賀繁一 小林嘉四郎 千葉四郎 辻影雄
平田秀穂 山方知清 山田博 山中三郎

目 次

第1章 現 図 工 事

1. 現図展開法 263
2. 現図型板書きに使用する略字、略符号 264
3. 定規型板の製作法及び使用範囲 265

第2章 鋼 材 加 工 工 事

1. 鋼材書き法 268
2. 撓鉄加工法 270
3. 機械加工法 271
4. ピックリング及び亜鉛鍍法 272

第3章 船殻組立工事

1. 船殻組立工事 273
2. 船殻歪測定法及びこれが匡正手段 274
a. 歪測定法。 b. 歪匡正手段
3. 現場穿孔法 275
4. 水油密パッキン材料及び適用法 276
5. 締付法 276

第4章 鉄及び填隙工事

1. 鉄及び製鉄 278
2. 鉄焼法 279
3. 鉄鉄法 280
4. 鉄鉄の順序 281

5. 填隙法.....	281
-------------	-----

第5章 熔接工事

1. 内業及び現場熔接法.....	283
a. 内業熔接. b. 現場熔接.	
2. 組立法及び歪防止法.....	286
a. 組立法. b. 歪防止法.	
3. 艦装熔接工作法.....	288

第6章 船殻検査法

1. 一般.....	291
a. 龍骨線の歪調査. b. コッキングアップの設定. c. 主機械, 罐, 兵器の据付及び車軸等の中心調べ	
2. 水密及び油密試験.....	292
a. 水密試験. b. 油密試験.	
3. 気密試験.....	294

第7章 諸管工事

1. 諸管工作法.....	294
2. 諸管現場工作法.....	295

第8章 薄板工事

1. 薄板工作法.....	297
2. トランクの現場工作法.....	298

第9章 軽合金工事

第10章 木工工事

1. 製材法.....	300
2. 乾燥法.....	301
a. 天然乾燥. b. 人工乾燥	
3. 木甲板工事.....	302
4. 一般工事.....	303

第11章 諸室倉庫儀装工事

1. 建具工作法.....	304
---------------	-----

2. 家具塗装法	304
3. 諸室艤装法	305
4. 倉庫艤装法	307

第12章 艤装金物工事

1. 鋳造工作法	310
a. 木型作業. b. 鋳型作業. c. 鋳造作業.	
2. 鍛造工作法	314
3. 機械工作法	319
4. 仕上工作法	320

第13章 船具工事

1. 索具工作法	322
2. 帆布工作法	323
3. 起重機, ダビット, デリック等の試験法	324
4. 重量物取扱法	324

第14章 短舟工事

1. 通船工作法	326
2. 救命艇工作法	326
3. 内火艇工作法	329

第15章 搭載重量測定法

第38篇 鎌金 塗料 セメント

担当委員 斎藤 定藏 橋口 保孝
執筆者 石橋 正樹 斎藤 定藏 佐々木新太郎 中川 博
宮川 秀人

目 次

第1章 鎌 金

- | | |
|---|-----|
| 1. 鎌金法の種類並びにその概要 | 333 |
| a. 電気鎌金。 b. 焙金浴鎌金。 c. 渗透鎌金。 d. 金属熔射
鎌金(メタリコン)。 e. 化合物表皮。 | |

第2章 塗 料

- | | |
|---|-----|
| 1. 塗料概説 | 336 |
| a. 定義。 b. 原料。 c. 種類。 d. 製造法。 e. 用途。 | |
| 2. 船舶用塗料 | 340 |
| a. 船舶用一般塗料。 b. 船底塗料。 c. 防錆塗料。 d. 耐酸塗料。
e. 耐水塗料。 f. その他の特殊塗料。 | |

第3章 セ メ ン ト

- | | |
|--|-----|
| 1. セメントの種類と特性 | 349 |
| a. ポルトランドセメント。 b. 高炉セメント。 c. 硅酸質混合セメ
ント。 d. アルミナセメント。 | |
| 2. セメント施工法 | 351 |
| a. モルタル。 b. コンクリート。 | |

第39篇 船体保存及び手入

担当委員 團 智彦

執筆者 生方 良夫 追川 英二 若林 雄吉 渡辺 二郎

目 次

第1章 保存及び手入法

1. 一般事項.....	355
a. 腐蝕の種類. b. 防蝕法. c. 物理的原因による故障.	
2. 船体各部の手入法.....	359
a. 溫度の高い箇所の腐蝕及び手入. b. 大気中における腐蝕及び手入.	
c. 水中における腐蝕及び手入. d. 化学薬品による腐蝕及び手入.	
e. 電気化学的又は迷走電流による腐蝕及び手入. f. 物理的原因による故障並びに対策.	

第2章 鑄 落 法

1. 物理的鑄落法.....	364
2. 化学的鑄落法.....	365

第3章 塗 裝 法

1. 一般要領.....	366
2. 塗装上の注意.....	367
3. 船体各部の塗装要領.....	368
a. 外舷及び船底. b. 諸水槽及び区画頃. c. 隠蔽部分.	
d. 汽機及び罐室. e. 諸倉庫等. f. 船体上部構造物及び諸室.	
4. 塗装による重量の増加.....	371

第4章 入 出 渠

1. 入出渠作業.....	371
a. 乾船渠における入渠作業. b. 乾船渠における出渠作業.	
c. 浮船渠における入渠作業. d. 浮船渠における出渠作業.	
2. 入出渠上の注意.....	373
3. 引揚船架における作業.....	375

第40篇 救 難

担当委員 橋 口 保 孝

執筆者 橋 口 保 孝

目 次

第1章 遭 難 の 種 類

第2章 遭難状況の調査

第3章 救 難 作 業

1. 救 難 計 算.....	382
2. 防 水 法.....	384
3. 排 水 法.....	386
4. 浮 力 附 加 法.....	387
5. 引 卸 作 業.....	388
6. 引 起 法.....	389
7. 浮 揚 法.....	389
8. 吊 揚 法.....	390
9. 泥 掘 作 業.....	390
10. 潜 水 作 業.....	391

第4章 救難船及び救難要具

第5章 救難に關する文献

第41篇 電 気 設 備

担当委員 山高五郎
執筆者 奥村正彦 間崎龍夫

目 次

第1章 電 気 工 学

1. 電気及び磁氣.....	397
a. 静電氣. b. 不變電流. c. 磁氣. d. 電磁氣.	
e. 特殊現象.	
2. 直流機械.....	402
a. 直流發電機の種類. b. 直流發電機の誘導起電力. c. 整流.	
d. 電機子反作用. e. 補極及び補償巻線. f. 直流發電機の特性.	
g. 直流發電機の電圧変動率. h. 直流發電機の並行運轉. i. 直流	
電動機の種類. j. 直流電動機の回転力. k. 直流電動機の速度,	
端子電圧の關係. l. 直流電動機の特性. m. 直流電動機の起動.	
n. 直流電動機の速度制御法. o. 直流電動機の制動.	
3. 交流理論.....	410
a. 交番起電力と交流. b. 正弦波交流. c. 平均値及び実効値.	
d. 抵抗のみを有する回路. e. 抵抗とインダクタンスの直列回路.	
f. 抵抗と容量の直列回路. g. 抵抗インダクタンス及び容量の直列	
回路. h. 交流のペクトル図式法と記号法. i. 交流電力と力率.	
j. 多相交流. k. 共振現象.	
4. 交流機械.....	414
a. 同期機一般事項. b. 交流發電機の分類. c. 交流發電機の誘	
導起電力. d. 交流發電機の特性. e. 電機子反作用と同期インピ	
ーダンス. f. 交流發電機の電圧変動率. g. 交流發電機の並行運	
転. h. 同期發電機のV曲線及び脱出回転力. i. 同期調相機.	
j. 同期電動機の起動方法. k. 同期電動機の乱調. l. セルシン電	
動機. m. 誘導電動機一般事項. n. 多相誘導電動機の特性曲線.	
o. 二重籠型及び深溝籠型誘導電動機. p. 多相誘導電動機の起動及	
び速度制御. q. 单相誘導電動機. r. 変圧器. s. 変圧器接続	
法. t. 特殊変圧器. u. 交流直流変換装置.	
5. 蓄電池.....	425
a. 蓄電池の種類. b. 鉛蓄電池の化学作用. c. 蓄電池の容量及	

び放電率.	d. 放電特性.	e. 充電特性.	f. 自己放電.
g. 蓄電池の能率.	h. 蓄電池の壽命.	i. 蓄電池取扱に関する注意.	
6. 電燈照明及び電熱.....			429
a. 電燈.	b. 照明.	c. 電熱.	
7. 電気通信.....			434
a. 有線通信.	b. 有線電話.	c. 無線通信.	

第2章 電 気 装 置

1. 電気装置一般.....			442
a. 電気装置と船内における電気の應用.	b. 所要電力と発電機容量 との関係.	c. 電気工事と他部工事との関係.	
2. 発電及び配電.....			450
a. 発電装置.	b. 二次電源装置.	c. 配電方式.	d. 電気装置 の交流化.
3. 電線及び電路器具.....			456
a. 電線.	b. 電路用器具.	c. 電路の布設.	
4. 電 燈 照 明			465
a. 船内照明の方式.	b. 適当なる照度.	c. 照明器具及び電球.	
a. 燈火管制.			
5. 電 力			469
a. 船舶用電動機.	b. 電熱器.	c. 電動機の速度管制方法とその 応用.	

第42篇 海上試運転

担当委員 常松四郎
執筆者 海上秀太郎 新堀米藏

目 次

第1章 試 運 転

1. 総 説.....	481
2. 予行運転.....	481
3. 最高速力試運転.....	481
4. 遅増速力試運転.....	481
5. 繼続運転.....	481
6. 試運転時における諸計測.....	481
a. 速力計測. b. 馬力計測. c. 燃料消費量計測. d. 蒸気消費量計測.	

第2章 試運転時に施行する諸試験

1. 運輸省及び船級協会の要求による試験.....	484
a. 投錨試験. b. 操舵試験. c. 発停試験.	
2. その他の試験.....	485
a. 羅針儀矯正. b. 旋回力試験. c. 停止及び後進試験.	
d. 最低回転数試験. e. 片舷機航走試験. f. 無線方位測定機試験.	

第43篇 工場設備

担当委員 井上恒六
執筆者 石原 効
古武彌輔

井上恒六
佐々木 新太郎

小倉健夫
中村林次

目 次

第1章 概 論

1. 位置、敷地等.....	495
2. 工場配置.....	496

第2章 事務所、設計室及び倉庫等

1. 事務所.....	496
2. 設計室.....	497
3. 材料置場.....	497
4. 倉庫.....	497

第3章 造船工場

1. 通論.....	498
2. 船殼工場.....	498
a. 現國工場. b. 訂書工場. c. 鉄機械工場. d. 捷鐵工場. e. 熔接工場. f. 外業一般.	
3. 艦裝工場.....	501
a. 鉄艦裝工場. b. 管工場. c. 木工場. d. 製材工場.	
4. 船渠工場.....	503
5. 船具工場.....	503

第4章 造機工場

1. 通論.....	504
2. 鑄造工場.....	504
a. 規模、敷地. b. 建家、型式. c. 鑄造場設備. d. 乾燥装置 その他. e. 木型場設備.	
3. 鍛造工場.....	505
a. 規模、敷地. b. 機械設備.	

43 篇 目 次

4. 機械工場.....	506
a. 建家, 型式. b. 設備機械.	
5. 組立工場.....	506
a. 建家. b. 設備.	
6. 製罐工場.....	507
a. 規模, 敷地. b. 機械設備.	

第5章 電気及び造兵工場

第6章 電気熔接設備

1. 熔接電源.....	508
a. 直流電源. b. 交流電源. c. 熔接電源設備に対する注意.	
2. 電気熔接設備.....	509
a. 電気熔接機. b. 熔接電纜. c. 電極棒保持器. d. 柄付面 並びにヘルメット.	
3. 電気熔接附属設備.....	510
a. 附属具類. b. 熔接卓並びに熔接台. c. 組立枠並びに緊結用具. d. 防雨防霜設備. e. 製品吊上げ装置.	
4. 母材加工に対する設備.....	511
a. 空気ハツリ機. b. 線削盤. c. ロータリー・シャー. d. ガス切断機.	
5. 予熱並びに焼鈍装置.....	511
a. 予熱温度 200°C 前後の軟鋼熔接用予熱装置. b. 500°C 前後の 予熱装置. c. 烧鈍装置.	
6. 電極棒塗布工場設備.....	512
7. 災害防止並びに設備.....	513
a. 電弧の眼及び露出した皮膚に及ぼす作用. b. 発生ガスによる災 害並びに防止設備. c. 熔融金属の飛沫による災害. d. 電撃に による災害の防止.	

第7章 船台及び造船船渠

1. 船台設計要領.....	514
2. 船台の構造.....	515
3. 引揚船台.....	515
4. 造船船渠.....	515

5. 起重機設備及び動力設備.....	516
a. 起重機. b. 動力設備.	

第8章 繫船設備

1. 陸岸繫留.....	516
2. 沖繫留.....	516

第9章 船渠

1. 船渠本体.....	517
2. ポンプ.....	517
3. 扉船.....	517
4. 附帶施設及び渠側起重機.....	517
a. 附帶施設. b. 渠側起重機.	
5. 浮船渠.....	518

第10章 動力

1. 原動力.....	519
2. 圧縮空氣.....	519
3. 熔接電力.....	519
4. 水圧力.....	519
5. 酸素アセチレン熔接切断施設.....	520

第11章 交通及び運搬

1. 曲船及び交通船.....	520
2. 起重機船.....	520
3. 鉄道及び起重機.....	520
4. 工場内軌道.....	521

第44篇 見 積

担当委員 川原五郎

執筆者 石原勲 川原五郎 福田啓二

目 次

第1章 総 説

第2章 見積の仕方

1. 載貨重量毎又は総噸数による法.....	526
2. 船体は載貨重量毎又は総噸数により、機関は馬力により 計算する法.....	526
3. 工事区分による法.....	526
4. 見積の型式.....	527
5. 工事区分内訳.....	530
6. 売価計算法内訳.....	532

第3章 船体重量又は容積

1. 船体重量.....	537
2. 大区分した船体部概略重量内訳.....	538

第4章 機 関 重 量

1. 機関重量の算出.....	539
a. 主機械の種類と機関部重量.	b. 機関部重量内訳.
c. 三聯成氣機及び筒型氣罐等の重量の算出.	

第5章 見 積 补 遺

1. 概算見積.....	541	
a. 材料費.	b. 工費，間接費（工場及び一般）.	c. 特別費， 一般管理費.

第45篇 港湾 航路 乾船渠

担当委員 横山涉

執筆者 飯沼重視 乙部四郎

目 次

第1章 港 湾

1. 港湾の施設.....	547
2. 本邦並びに世界における主要な港湾.....	548
a. 本邦. b. 外国.	
3. 船舶の繫留方法.....	549
a. 錠泊. b. 浮標繫留. c. 橋脚或は岸壁繫留. d. 船舶に繫留する場合.	

第2章 航 路

1. 命令航路.....	550
2. 主な定期航路（命令航路以外）.....	550
3. 主要港間の距離	552

第3章 河 川

第4章 運 河

第5章 乾 船 渠

第46篇 法規

担当委員 生野熊一
執筆者 上野喜一郎 川崎周三郎

目次

第1章 船舶法

1. 日本船舶	557
2. 船舶の登記及び登録	557
3. 船舶国籍証書及び船鑑札	557
4. 船舶における各種標示	558

第2章 船舶積量測度法

1. 我国における測度法規	558
2. スエズ運河及びパナマ運河頓数測度規則	559

第3章 船舶安全法

1. 國際条約	559
2. 船舶検査	560
a. 定期検査。 b. 中間検査。 c. 特殊船検査。 d. 臨時検査。	
3. 船級協会	562
4. 船舶検査証書及びその他の証書	562
a. 船舶検査証書。 b. 特殊船検査証書。 c. 合格証明書。 d. 回航認可証書。 e. 条約証書	
5. 航海上の危険防止	563
6. 船用品の規格及び試験	563

第4章 船舶職員法

1. 海技免状	564
2. 船舶乗組員	564

第5章 外国における法規

第47篇 標 準 規 格

担当委員 渕 一 磨

執筆者 吉 田 永 助

目 次

第1章 日本における工業品規格統一事業の概要

第2章 歐米諸国における規格統一事業の概要